

第20回 P I 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年5月29日（木） 午後7時00分～9時10分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：23名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬） 武田 佳登（練馬） 宿澤 藤子（杉並） 濱本 勇三（武蔵野）

村田 あが（武蔵野） 新 守一（三鷹） 富澤 和也（三鷹） 米津 鐵雄（三鷹）

川原 徳重（調布） 渡辺 俊明（調布） 橋本 妙子（狛江） 秋山 光男（世田谷）

江崎美枝子（世田谷） 栗林 勝彦（世田谷）

地元自治体

平野 和範（練馬区部長） 倉田 征壽（杉並区部長） 井上 良一（武蔵野市課長）

大川 宗男（狛江市部長） 栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）

成田 隆一（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約70名

5. 概要：

【環境に与える影響について】

- ・換気所は、今後検討していく外環道本線及び連絡路の延長、勾配や交通量等に基づき、必要となる風量等を算出して、換気所の必要数や位置を検討していく。その際、沿線や地上部への影響を極力小さくする観点が必要。
- ・外環の料金設定等、将来交通量予測のための設定条件を明らかにすべき。また、予測値についてはケース別に示すべき。
- ・交通量の数値は、何故時々変わるのか。
現時点では、将来交通量の予測をするための条件がまだ確定していないのでお示しできない。算出方法については、分かりやすく説明していきたい。交通量の数値は、現時点ではこれが最新である。
- ・野川付近の開削工事の方法や影響が出た場合の対策を示すべき。
野川自体を掘ることはなく、川沿いに壁を立てて掘ることとなる。
- ・青梅街道インターチェンジは、計画の場所が学校や幼稚園に近く、設置は無理ではないか。
- ・歴史のある善福寺池が外環の影響により元に戻らなくなるのではないか。
- ・工事による地下水への影響を検討するため、ボーリング調査を行うべき。
- ・工事により生活用水が枯れることは大変なことなので、ボーリング調査はしっかり行うべき。
- ・予測の前に現状がどうなのか調べる必要がある。
現時点でわかり得る情報はお示ししているところ。現地に入って詳細な調査を進めていきたい。
- ・地元に説明するために、外環を造った場合の影響について早く出すべき。
予測については、現況の状態を把握してから行うものである。現段階では、開通している道路の測定値をお示しさせていただいているところ。
- ・環境アセスメントについてもP I的な思考を考えていくべき。

【生活に与える影響】

- ・イメージ模型の資料の取扱いについては、慎重に行ってほしい。
- ・各地区のインターチェンジ及びジャンクションのイメージの問題よりも外環の必要性について議論する必要がある。
- ・今後、通行車輦が減るような規制の変更は考えているか。
次回、説明する。

【その他】

- ・協議員の任期は1年となっており、必要な手続きについて事務局で調整する。
- ・次回協議会は、6月10日（火）に「中間とりまとめ」を中心に議論する。